

ニライみらい

2026年(令和8年) 5月号 458号

「ありがとうの輪」を広げる 技術者集団に!



AIR TECHNO S



今月号の 目次

- 2面 21世紀に輝く【株エアテクノサービス】
- 3面 新会員オリエンテーション・茶論
- 5～9面 支部・部会活動
- 10面 同友会大学大学院
- 11面 社長・社員共育塾
- 12面 碧の会バスツアー・宮古支部学習会
- 13面 だっからよ～【株シグマ】
- 14面 わが社のポリシー【西原自動車販売株】
- 15面 私の推し本

同友会ってどういう会?



入会申込フォーム



魅力動画



行事案内



Facebook

株

21世紀に 輝く No.250



大島 盛幸 氏

「ありがとうの輪」を広げる技術者集団に！ 技術者教育で活躍と成長の場を提供

すべからく「こういう会社でありたい」というイメージ、皆さんお持ちだと思います。

社員みんながニコニコ楽しそうに働いて、自然な感じで切磋琢磨や自助努力で会社がどんどん伸びていく。当然ながらお客様からの「ありがとう」は聞かれる数だけ集まって、さらに紹介という良い連鎖の輪が広がり、会社の活躍の場が増えていく。今回はそれを正に体現し、そのための一切の努力を惜しまない、(株)エアテクノサービス代表取締役の大島盛幸さんにお話を伺いました。

「二十才で起業をする、と決めたのは自衛隊の航空整備士を辞めた時。進んでいく先のレールが見えたような気がして、そこに興味が持てなかつたんです。しかし起業をした当初から順風満帆ということではありませんでした。当時は全てを自分で抱え込み「二十四時間体制だったといっても良いと思います」の言葉通り、休むことなく働き続けたことが原因で、体調を大きく崩してしまいました。そのことで十数名のスタッフがいながらも、一か月間会社が回らない状況を作り出してしまいました。

「そこからあちこちに、学びの場を求めるようになりました。同友会もその最初の一つで、当初作成した経営理念をベースに、これでもかと何度も何度も理念の深堀りを行いました。自分がこれだいい、と思っても、周囲の経営者の皆さんは「いやまだだ」「もっと考えろ」と言ってきたのです。

「こうして繰り返し出来上がったものが現在会社で行っている。未来会議・へとつながっています」見せ

て頂いた手帳には、理念を基に社員同士が自分自身で考え作成した目標が大きく書かれ、日々の行動に直結しているのだとか。

さて大島さんの会社、エアテクノサービスの営業種目は「空調設備をメインとしつつの設備工事全般」有資格者一覧には、様々な資格が何行にも渡って並びます。「資格の種類もそうですが、より多くのことを体験し、経験へと変えてもらうことが大事だと考えています。その中でも技術者の育成は最重要項目で、教育関係には大きな予算を取るようにしています」。取材でお話を聞かせて頂いた部屋は、近い将来作業実習のために改装し、「新規採用者の技術力向上の場」になるのだそう。

「しかしこういった取り組みがなければ、地域から技術者がいなくなってしまうんです。経験がない方でも当社に来てもらえば、数カ月の訓練とその人の適性に合った配置により、活躍と成長の場を提供できると考えています」。

一通りお話を伺い建物を出ると、ちようど社員の皆さんが現場から戻



奥へ長く続く事務所は、多くの会議室が並びます

《会社概要》

(株)エアテクノサービス

代表取締役 大島 盛幸 氏

〈八重山支部〉

所在地 / 石垣市大浜764-2

TEL / 0980-87-7362

事業内容 / 電気設備(電気・機械設備
保守管理)



社員の皆さんの「自信」が
感じられます

「作業は「キレイ」ではなく、「丁寧」に。そう語る大島社長と社員が作るエアテクノサービスという名の技術者集団は「ありがとうの輪」をどこまでも広げていく、そう誰もが目指したくなるような頼もしい会社、見事にそこにありました。(株) PLANT PLAN・宮良高彰)



新会員オリエンテーション in 沖縄市



新会員のみなさま 左から

- ①野原 勝治氏
(同) obst 代表社員)
- ②新城 忍氏
(中部たたみ店 代表者)
- ③大城美弥子氏
(沖縄ラジオ(株) 専務)
- ④宮城 卓央氏
((株)ワンストップ 社長)

ベッセルホテルズにて、三月新会員オリエンテーションが開催され、新会員四名を含む十四名が参加しました。

3月は中部支部の設営で仲本和美副支部長の開会挨拶でスタート。司会は今垣麻衣子幹事(龍華 代表)が務め、「同友会の歴史と理念」は、一瀬宗也副代表理事が担当しました。一瀬副代表は、オリエンテーションの資料を使って、中小企業の役割から話し、同友会とはどんな組織なのかを説明しました。また、同友会の活動内容では、支部例会での会員による経営体験報告の魅力を強調しました。

「同友会の魅力体験報告」では、与儀しのぶ氏(侑がじまる印刷)が、女性経営者部会「碧の会」を紹介し、その中で、多くの女性経営者に関わることで、自身の成長があつたと振り返りました。

その後、新会員の皆さんにバツジ贈呈が行われ、一人ひとり自己紹介では、入会に至った経緯と事業内容のPRがありました。

同友会のグループ討論を経験してもらおう二十五分のミニ討論は、今の経営の悩みを出しつつ、同友会の活用法を先輩経営者よりアドバイスがありました。最後に與崎文美副代表理事よりの「ともに中部支部を盛り上げて欲しい」との期待を込めた閉会挨拶で終了しました。(事務局)

茶論

お釈迦様の台座に描かれる蓮の花。選ばれた理由に深い示唆がある事を最近学んだ。蓮は清らかな水では育たず、濁った泥水の中でこそ大輪の花を咲かせるそうだ。しかも、泥が濃く、環境が厳しいほど花は一層見事に開くという▼「温室育ち」と揶揄されるように苦労を知らない環境の中で育つと大きく成長することは少ない。蓮における泥水を人生に例えるなら、それは試練や苦難、挫折であろう。迷い、悩み、衝突しながらこそ、自らの信念が磨かれていく。蓮が泥を養分として美しい花を咲かせるように、人もまた逆境を糧として光を得るのだ▼

経営の道もまた、常に泥中にある。環境変化は激しく、課題は次々と押し寄せる。経営者は孤独に思い悩むときもあるだろう。しかし、私達には泥水が必要である。悩み、苦しみ、困難も自分の成長の為に与えられた養分だと考えれば試練は決して無駄ではない▼その一つ一つを乗り越えた先に、経営者としての人格と企業成長の花が咲く。全ては美しい花を咲かせるために必要なのだと言える▼同友会の活動には、その試練を乗り越える知恵と仲間がある。学び合い、支え合い、励まし合う中に経営の真理がある。どんなに濁った泥の中にあっても、私達は蓮のように凛と咲き誇りたい。(稲穂)



2026年合同入社式・新入社員研修会

「共に育つ」同友会の研修会に

40社158名が参加

四月二日～三日の二日間、ユイinchホテル南城にて、二〇二六年度合同入社式・新入社員研修会が開催され、四十社の新入社員一〇四名が参加しました。

共同求人委員会・社員教育委員会合同で行われるこの研修会は、共同求人等を通して採用した大事な新入社員が、社会人としてスタートする大切な取り組みで、年間で開催する新人フォローアップ研修の第一歩となります。新入社員各社から五十四名の付添者と学校関係者の来賓で始まった合同入社式は、粛々とした空気の中、各社長より辞令交付を行い、代表して新入社員二名から決意表明がありました。

その後の新入社員研修会は1日目に、ちゅうら工房(株)の代表取締役、具志直人社長の「社会人の心構え」講話、ビジネスマナーの講師は、アグレアーブル印象美人(株)あらかき咲美社長、コミュニティセッションゲームは、(株)琉球補聴器・森山賢社長の講義と続きました。一日目グループ討論の前につま先立ちアイスブレイクゲームを付添者のマエダ電気工事(株)三浦玖美子さんの掛け声のもと、新入社員全員でゲームを行いました。会場は、和やかな雰囲気にな



緊張する新入社員



研修風景

り新入社員の緊張感がほぐれました。二日目は、三名の先輩からの体験報告、そして「チームワークレクレーション」を(株)アイゼックジャパン鈴木美穂子さんに講義していただきました。この講義では、相手を思いやる褒め言葉(ギフト)、自分の強みを生かした才能、みんなで納得して決める(合意形成)、会議の進め方、役割決めといったチーム一人一人が自主的に学ぶチームワークレクレーション講義でした。この後の「創作発表会」ではチームワークレクレーションの講義が生かされ、十二グループバラエティー豊かな発表で会場は大盛り上がり。七十五分間で制作から脚本・配役まで作り上



新入社員全員集合

げ、一人一人が主体性をもって取り組んだ成果だと感じました。その後の修了式でもグループを代表した決意表明があり、最後に記念撮影をして終了しました。合同での入社式・研修とあって、マスコミも注目し、ラジオ放送、夕方のニュースで放映され、朝刊にも掲載されました。二日間の研修を振り返って、最初は、研修生全員緊張気味でスタートしまし

た。研修が進むにつれて緊張もほぐれて、コミュニケーションゲームの頃には笑顔が増え、イキイキとした表情に変わっていききました。二回行われたグループ討論では、お互いに感じたこと、学んだことを出し合い、更に自分自身の考えを深めました。又、新入社員だけではなく、付添者として参加した経営者・社員からも多くの事を学べたという声が多く上がっており、「共に育つ」という同友会の理念を体現した研修会になりました。

(株)赤マルソウ 大田守章

新人事務局員紹介



山田 貴 氏 会員の皆さま、
理 務 局 の 山 田 理 貴 と 申 し ます。
二〇二五年三月
に沖縄大学を卒業し、五月から同友会事務局員として入局しました。二〇二二年生まれで今年二十四歳になります。この度、二〇二六年度合同入社式・新入社員研修に参加させていただきました。改めて社会人として自覚と決意に燃え、様々な会員さんと交流し、共に成長させていきたいと思いますので、厳しいご指導よろしくお願ひします。

業し、五月から同友会事務局員として入局しました。二〇二二年生まれで今年二十四歳になります。この度、二〇二六年度合同入社式・新入社員研修に参加させていただきました。改めて社会人として自覚と決意に燃え、様々な会員さんと交流し、共に成長させていきたいと思いますので、厳しいご指導よろしくお願ひします。



八重山支部 3月例会報告

逆境を乗り越える
危機的状況からの復活



三木 誠 氏
山支部三月例会が
開催され、太平洋
ネンサププライ(株)
常務取締役の三木
誠氏より「逆境を

三月十日、八重

乗り越える危機的状況からの復活」を
テーマに経営体験報告が行われ二十五
名が参加しました。

同社は八重山地域のホテルリネンの
約七割を担う観光インフラ企業として
地域の観光産業を支えてきました。し
かし二〇二四年一月、工場火災により
施設の大部分が焼失するという未曾有
の危機に直面します。供給停止は地域
の観光業にも大きな影響を及ぼす可能
性があり、顧客対応や従業員の雇用維
持など、経営者として極めて厳しい判
断を迫られる状況となりました。

この窮地に、同社は「リネン供給の
継続」「従業員の雇用維持」「工場の早
期復旧」という三つの基本方針を掲
げ、県内外の同業者や関係企業の協力
を得ながら供給体制の維持に取り組み
ました。沖縄本島の同業者の協力によ
る生産体制の構築や輸送体制の再整備
など、様々な工夫を重ねた結果、火災
から約六か月で生産能力は七割近くま

で回復。夏の観光シーズンには売上が
前年を上回るまでに復活を果たしまし
た。

三木氏は「疾風に勁草を知る」とい
う言葉を引用し、危機の時こそ人の真
価が問われると語ります。日頃から社
員や取引先と真摯に向き合い、信頼関
係を築いてきたことが会社を支える大
きな力となり、多くの人の支えによつ
て困難を乗り越えることができたことと振
り返りました。

グループ討論では「あなたの会社の
リスクは何ですか」「対応・対策して
いますか」をテーマに活発な意見交換
が行われ、後継者不足や人材育成、原
材料価格の高騰など、各社が抱える課
題について共有しました。

今回の例会は、危機に直面した際
の経営判断
と、日頃から
築く人とのつ
ながりの大切
さを改めて学
ぶ貴重な機会
となりました。
(同) 松島
奥平(あかり)



集合写真



サンライズ支部 3月例会

起業家の想いに学ぶ事業承継



米須 清貴 氏



座長の 帆谷 氏

三月十九日、与那原町商工会会議室
にて、サンライズ支部例会が開催され、

「起業家の想いに学ぶ事業承継」地域
に愛される企業をめざして」をテー
マに、(有)東部開発 社長の米須清貴氏
が報告し、十八名が参加しました。

(有)東部開発は父親が創業し、建売を
含めた不動産事業を営む会社です。米
須氏は、会社紹介の際、父親の多くの
職歴と町議などを務めたアグレッシブ
なキャリアを紹介。そんな父親からい
かにして事業承継していったかを話し
ました。

米須氏は、プログラマーとしてのキ
ャリアから、父親の会社に入社。地域
の青年部の活動を積極的に取り組む中
で、与那原への地域愛に目ざめ、会社
を継ぐことを覚悟します。しかし、こ
のワンマン社長からの事業承継は多く
の先輩経営者の教訓から、かなりの困
難が予想されました。そこで、自らも
宅建の資格を取得し、社長に意見し始

め、銀行等にも同席するなど、じつじ
り時間をかけ、銀行支店長など周りの
協力を得ながら、程よい距離での伴走
経営に成功。二年ほどで父親から「任
せた」の言葉を貰いました。「小さい
会社、家族経営こそ計画的な事業承継
が必要。特に精神的な克服課題が大き
い」と強調しました。

承継後の大きな取り組みとして二つ
紹介し、会社の財務を含めた三十年間
の沿革を振り返り、家族や自分の人生
と重ねて見つめ直したことから、就業規
則等の業務ルールを整備、マニュアル
化し、社員が安心して働けて成長でき
る環境づくりを挙げました。

最後に今後の会社の展望として、同
友会を活用しての経営指針づくりに挑
戦し、人材を増やし、社是の「心の豊
さ」を追求し、地域の課題解決事業と
して展開したいと語りました。

座長を務めた、とり坊主代表 帆谷
政喜氏は、「地域の活動を取り組んで
きた仲間でも、いざ経営の話となると
知らないことが多いことに気がつきま
す。同友会の魅力は経営を学ぶ同志に
なれることです」とまとめました。

(カラオケ同友会 島尻裕巳)



「名護市中小企業・小規模企業振興ビジョン」学習会

三月三日、北部支部の役員会終了後に、ハウリブ名護宮里店にて「名護市中小企業・小規模企業振興ビジョン」についての学習会を開催しました。(株)FMやんばる代表取締役のジョバンニこと新城拓馬氏より学習会の趣旨説明があり、その後、名護市地域経済部商工・企業誘致課の神山係長・金城課長



学習会風景

から、具体的な説明を受け、ビジョンの全体像に加え、次期策定を見据えた方向性についても理解を深めました。名護市中小企業・小規模企業振興ビジョンには、人材不足や事業承継、DX推進といった市内事業者が抱えるリアルな課題をふまえ、経営基盤の強化や人材育成、競争力向上などの方向性が示されています。また、創業支援、雇用対策、商品開発に加え、補助金や各種支援制度の活用につながる具体的な施策も盛り込まれていることが紹介されました。

参加者からは、「経営戦略を練る上で行政のビジョンを知ることが、リアルなビジョン経営のきっかけにつながると感じた」「支援制度、とくに助成金や補助金について理解を深めることができ、今後は積極的に情報収集していきたい」「まだ知らない制度や取り組みが多く、こうした学びの機会が必要だと感じた」といった感想が寄せられました。行政の方針を学び、自社の経営にどう生かしていくかを考える、実りある機会となりました。(株)アイランド・プロジェクト 新井章仁



北部支部6次産業化委員会企業視察

三月二十六日、北部支部6次産業化委員会では、名護市の(株)琉球若草にて企業視察を実施し、八名が参加しました。

はじめに、琉球若草 大森陽介専務より、企業理念や会社概要、さらに群馬に本社を持つ同社が、沖縄を拠点の一つとして選んだ経緯について説明を受けました。地域に根ざすために努力を重ねてこられたことが印象的でした。現在は北部を中心に、地域の印刷物にも幅広く関わっており、地元企業としての役割を着実に築いている様子が伝わってきました。



工場の外観



参加したメンバー



報告の場面

せられました。業務の一部はうまく群馬との分業体制をとって展開していることなど、実務に即した話を伺うことができました。

今回の視察を通して、6次産業化においては、商品そのものの魅力だけでなく、それを伝えるラベルや販促物などの存在が欠かせないことを改めて実感しました。生産者や事業者にとって、近い距離で相談でき、発信を支えてくれる企業が地域にあることは強みです。今後、委員会では、地域企業とのつながりを深めるとともに、中南部で先進的な取り組みを行う事業者を北部に招いて勉強会を行うなど、新たな交流の形を広げていくことも検討していきます。(勝山シークワサー 仲村尚吾・(株)アイランド・プロジェクト 新井章仁)



那覇支部西&北地区 合同例会

例会では報告者が一番学べる



儀間 奈津美氏

三月二十七日、沖縄産業支援センターにて那覇支部西地区×北地区三月合同例会が開催さ

れました。報告者は那覇支部西地区の(株)儀間不動産・社長、儀間奈津美氏で「100年企業を目指して」をテーマに報告していただきました。当日は四十四名が参加し、報告者の儀間氏は想定よりも大人数であるため緊張していたとのことでした。

儀間氏は、祖父が一九六四年に創業した儀間不動産を、二〇一五年に四代目として引き継ぎました。それまでは県外で営業の仕事から始まり、花王に務め、そこで旦那さんと知り合い、結婚、出産、それから旦那さんがアメリカ軍で働いていたこともあり渡米し、アラスカの旅行代理店で働いていました。

その後、代表取締役は親族が良いと家族からの説得によって(株)儀間不動産に就職することになります。四代目として経験のない職種で、経験のない経営がスタートしました。最初は、何が分からないのか、それすらも分からない状況で専務にいつも怒られていました。



真剣なグループ討論

ある仕事のつながりから(株)近代美術の小井戸恵美氏と出会い、「碧の会」に参加したときに、楽しく経営している先輩方を見て『かつこいい』、自分もこうなりたいと思うようになりま

す。それから全国行事や例会に参加するようにになり、三つの目的から儀間不動産には「よい経営者」が足りていないと振り返り、例会で学んだことやグループ討論であった会話から自社に取り入れ実践してきました。

しかし、社内で反発されるなど上手くいかないこともありました。今回の例会の準備の段階で、この件について座長の大城氏から『なぜ、社員から反発されてすぐに引いたのか』と問われ、改めて考えると、学んだことを自分事として落とし込めていなかったと振り返ることができました。グループ討論では、「必要とされる企業になるためにあなたはどんなことをしますか?」をテーマに積極的な意見交換が行われました。(事務局)



ビジネス連携部会 ゆいまゝる

ゆいピッチしくじり先生版



玉城 栄氏

ビジネス連携部会ゆいまゝるでは、三月十九日に「ゆいピッチしくじり先生版」を沖縄産業支援センターにて十名の参加で開催しました。

今回は、(有)リサイクルセンター沖縄代表取締役の玉城栄氏が報告しました。

一九七六年に先代である父が創業し、一九八一年に法人化。玉城氏は二〇一七年に二代目として就任。翌年に事業の幅を広げたいとして、委託・訪問介護事業をスタートします。二〇一三年には国の制度を利用して職業訓練校を開校しましたが、その準備のなか、開校三カ月前に、労働組合が結成されると、社長から知らされました。

その後、玉城氏自身が団体交渉しなければならず、県内でできる社労士が探せなかったため、東京の社労士に依頼。当時の社長も昔の感覚のままに経営し、自身も経営、特に法律の知識がなく、就業規則、36協定等、無い無い尽くしで、完全な「ブラック企業」だったと振り返ります。

そんな大変な時に同友会の役員を依頼され、「外を知る、勉強する機会になる、このままでは会社は存続しない」と引き受けます。

一方、取締役会では「会社解散」を決議し、覚悟を決めました。しかし、その後の折衝で、組合と労使協定を結ぶことができ、解散を逃れます。その経験から社内環境整備を進め、無い無い尽くしから「有る有る」へ変化。同友会の会合や役員会に参加している経営者と関わる中で、知らず知らずのうちに変化が起こっていたのではと感じたそうです。悩みや課題を話すことで解決策が見いだせたこと、社員との関係が敵対から融和へ。現在、組合は解散し、社員の労働環境は待遇改善を重ねているそうです。

玉城氏からは、労働紛争から得た経験と同友会に参加したことで得たことの事例をあげ、「同友会をフル活用しましょう」と経営者が本音で語り、相談できる場があることが、自身の支えになったと語りました。

報告後は質疑応答で現在の社内状況や報連相のあり方など、さらに深く質問がだされました。(事務局)



浦添でだこ支部 3月ビジネス改善ラボ

『Be Colorful』個性を發揮する』



真栄城 秀人 氏

開催され、十六名が参加しました。

報告者はBeColorful(ビーカーフル)代表の真栄城秀人氏でした。BeColorfulは「未来の“勇者”を育む」をミッションに掲げ、勇者アカデミー(個性をベイスにした人間力を伸ばす親子コーチング)子育てミライ相談&体験コーチング(お子さんの精神的成長を実感)MiQi指紋ナビ(指紋から生まれつき脳の特性がわかる)の三つを柱に事業を展開されています。

真栄城氏は、コーチングに出会ったことで「こどももおとなも素の自分を發揮し、本当に望む生き方を楽しんでほしい、誰でも色とりどりに、カラフルな個性がハーモニーを奏でる世の中になってほしい」と強く思うようになり十二年間勤めた学習塾の経験を活かし、人間力を伸ばすことを大事に子供たちと関



会場全体

後の課題解決や事業展開が期待される報告でした。「勇者」(個性ベイスの人間力を發揮し周りを勇気づけ發揮させる人)の誕生がこれからの未来を創る!!(同)Green Star OKINAWA友寄利津子)

三月二十六日にアイム・ユニバースでホール「多目的室2」にて、ビジネス改善ラボが

「人間力を伸ばす」ことを最強の教育であると強調しました。

グループ討論では報告の中で挙げられた三つ課題について討論し、各グループからターゲットや広報、BtoCからBtoBへの展開などの意見や提案が出されました。最後に真栄城氏は「このように多くの人の意見や提案を受けて自分の枠が外れ、視野が広がった」と感想を述べ、参加者各自の今後の課題解決や事業展開が期待される報告でした。

三月二五日、沖縄同友会は沖縄国際大学と地域産業の発展と人材育成の強化を目的とした包括連携協定を、宮城光秀・座間味亮の両同友会代表理事と沖縄国際大学の安里肇学長が書面にて締結しました。

調印式は、タイムス・新報両社を招いて、沖縄国際大学のキャンパス内で行われました。玉代勢尚茂総務課長の進行で、質疑応答では協定内容についての質問が出され、翌日の両朝刊に紹介されました。

これまで同友会とは協力関係にありましたが、今後、インターンシップや経営者が参加するセミナーなど、大学が企業に直接調整することなく、同友会が窓口と取り組めます。さらに、キャリア教育の早期化、社会人向けリカレント教育などでも協力して取り組むことができます。

沖縄大の安里肇学長は「学生たちには中小企業の重要性を知ってもら



沖縄国際大学と包括連携協定を締結

い、現場に根差した実践力を身に付けてもらいたい」と期待を寄せました。また、宮城光秀代表理事は「中小企業で働く社員の学び直しの機会にも繋げたい」と話しました。

これで沖縄同友会と大学との包括連携は沖縄大学に続き二例目となりました。(事務局)



安里学長と宮城、座間味氏



経営サポート学習会

人が育つマエダ式人事評価制度
社員が成長し続ける組織をめざして



真栄田 士郎 氏

経営委員会では、経営サポート学習会を三月十六日に沖縄産業支援センターとZOOM併用

で開催し、五十四名の参加がありました。人が育つマエダ式人事評価制度は社員が成長し続ける組織をめざして」をテーマにマエダ電気工事㈱の代表取締役の真栄田士郎氏が事例報告を行いました。

はじめに真栄田氏は、同友会とのかかわりや会社概要を説明されました。人事評価制度の導入は、二〇一八年の第四十八期経営方針書「本気になって人材育成を考える。終わりのない経営課題。人を育てる仕組みづくり」として、方針を明記。次期経営者、幹部、人を育てる人、新人社員と四つの育成を明記し、社員個人の成長と組織目標を達成させるための支援制度の導入を決めたそうです。マエダ電気工事では、人事評価制度を自社独自の「成長支援シート」へと変え、そのシートは幹部社員が現場の状況とすり合わせ、幾度も検討を重ね作成しました。本格導入前に三カ月間の試用期間を設け、スタートしたものの問題点が浮上し一時運用をストップ。発生した問題を

見直し、工事部長を中心にした勉強会を開催。導入目的の再定義として「社員を人生の成功者になりたい」を確認し、同時に、賃金制度の見直しを進め現場単位でのコスト管理も徹底しています。運用による成果の一つとして、

兄からの社長交代時に問題が起こらなかったことなどをあげました。

現在は「共育課」を新設し、失敗と成長を重ね、「共に育ち合い、学び合う社風にした」。「沖繩の役に立つ人材が育つ」「人が成長する会社」にしていきたいと、今後の展望を語りました。

質疑応答では、「なぜ続けられたのか?」「評価に納得していない社員はいますか?」などがあり、今回参加していた幹部社員から回答がありました。真栄田氏が総務部長

時代から代表取締役に役職が変わる中、その責任感や人柄にも変化が見られたなど、社員目線の裏話もありました。人事評価制度は、何のために導入するかを考え、良いスパイラルを作り社員・会社の成長発展につなげていくことが大切であり、自社のビジョンと労使見解の視点が重要だと改めて考える学習会となりました。(事務局)



会場全体



中部支部
ビジネスランチ
交流会

三月六日、縁どころ吉嶺にて中部支部ビジネスランチ交流会が開催され、九名が参加しました。この交流会は中部支部会員に限り、会員特典として初回参加費無料となります。

今回はリフォームサイエンス㈱の知花順子社長を囲み、独立した元社員さんたちと協力会社として手を取り合う、温かくも強い「グループ経営」の形を学びました。リフォームサイエンス㈱は、宜野湾近郊での内装・外装工事を中心に、女性スタッフによる細やかな提案やシヨールーム同行など、一人暮らしや高齢の方も「安心して任せられる」家づくりを実践しています。知花社長の地域に根ざした活動に、多くの刺激をいただきました。

(アントレ 阿嘉久美子)



楽しいランチ交流会



同友会大学第16期大学院 第5講・第3講

【第5講】

日本に唯一現存する

核ミサイル発射台を見学



桑江 功 氏

三月十四日、大学院
第五講「日本に唯一現存する核ミサイル発射台」その発射台を自分の目で確かめながら平和について考える」が、恩納村のメースB（創価学会沖縄研修道場）にて公開講義として開催され、ゲストを含め四十四名が参加しました。

講義の冒頭では、創価学会沖縄事務局局長の桑江功氏が登壇し、一九六〇年代の沖縄において核ミサイル発射台がどのような経緯で設置されたのかを解説しました。当時、沖縄には恩納村、読谷村、金武町、うるま市勝連の四カ所に発射台が存在していましたが、その中で恩納村の施設のみが原型を保ったまま保存されている理由についても、当時の映像を交えながら説明されました。

屋内での講義後、参加者は実際に核ミサイル発射台を見学しました。発射台の入口や周囲の建物は厚いコンクリートで覆われており、かつてここに核弾頭が配備されていた事実を強く感じさせるものでした。また、今回は特別に、

通常は一般公開されていない地下施設の見学も実施されました。独特のお



講義風景



核ミサイル発射台をバックに集合

第3講

【第3講】

沖縄の政治経済学

統計と実体経済の乖離の検証



前泊 博盛 氏

第三講は
三月二十一日、沖縄国際大学・大学院教授の

前泊博盛氏を講師に「戦後八十一年—沖縄の政治経済学—統計と実体経済の乖離の検証」のテーマで開講し、十四名が参加しました。

前泊氏は、沖縄にかかわる政治と経

いや空気が漂う空間に、まるで時間が止まったかのような感覚を覚えた参加者もいたようです。

発射台見学後は、屋内施設の平和祈念館に移動し、「沖縄戦の絵展示室」や「平和行動を紹介する展示室」、幸福と平和を願う「美ら島フォト展示室」などを巡りました。地下施設は非公開ですが、その他の展示は無料で見学できます。

まだ訪れたことのない同友会会員がいましたら、メースBの施設を通して沖縄の平和について改めて考える機会として、足を運んでみては如何でしょうか。（株）フナテック 富名腰一真

済の統計データを分析し、統計データと政治・経済の実態との乖離を解説しました。例えば、沖縄の観光客一千万人や、観光収入はどのように力ウントしているのか？沖縄の人口は約一四七万人とされているが、常時七〜八万人の観光客と五〜六万人の米軍人が「定住」している。それらを含めると約一六〇万人となる等、企業を営営していくには正確なデータに基づいた分析が必要であることを指摘しました。そして、観光開発と環境保護、基地経済の功罪、沖縄振興と経済格差、3K依存と新10K経済など、沖縄の政治経済の実態を解析する「沖縄政治経済環境学」を提起しました。

平和な社会を実現するには、世界中の人々と相互理解を深め、政治的、経済的、文化的に交流を重ねていくことが重要です。そのために、様々な情報の中から本質を見抜く「慧眼」を鍛えることが大切だと学びました。

戦後八十年を経て、体験者から直接話を聞く機会は無くなりつつあります。体験者と直に関わることができた私達世代には、戦争の実態を次世代へ伝えていく責任があります。各講義で講師の方々が示してくれたように、童謡や人形、学校教育や教科書、政治・経済、講話や演劇、戦争の遺構や絵など、自身にできる方法で平和の想いを伝えていく決意をさせてくれた特別講義でした。（南）大宮工機 宮城光秀

社長・社員共育塾 最終講・修了式

学びが実践に変わる成長塾、
来期も仲間と共に

「社員のこんなにも素晴らしいスピーチを聞いて、心から幸せでした」

参加した自社社員の成長した姿に、心の中で涙を流したと語る今井社長。三月十七日、沖縄産業支援センターで開催された社長・社員共育塾最終講に、八十四名が参加しました。

今期最後の共育塾では、(有)大宮工機の島袋翔五氏、いまいパン(同)の小波津優哉氏、ちゅら工房の(株)新城豊氏、(株)システック沖縄の山下恵氏、マエダ電気工事(株)の眞喜志隼人氏の五名が登壇し、この一年間の学びと実践を発表しました。

発表では、リーダーのあり方について、自らが上司に信頼される存在になると同時に、社員を信頼し仕事を任せることが人を生かし、組織の成長と仕事の幅の拡大につながるという信念が語られました。理念については、日々自らに落とし込み、自身のありたい姿を意識すると共に理念の下に全員が行動することで、より大きな成果を成し遂げたいと、理念経営参画への意識の高まりが見受けられました。

「これまで自分の意見を控えがちだった」という山下氏は、対話・信頼・当事者意識・継続をテーマに掲げ、部

下の話を心で聞いて本音を引き出し、共感を示して仕事を進めていると実践の報告がありました。

最後は、修了者七十一名全員の名前が呼ばれ、太田守章社員教育委員長より修了証と記念品が授与されました。委員長は、今期テーマである『人を生かすチームづくり』に触れ、「仲間を増やしながら互いに学び合い、継続することが重要です。来期もみなで共に成長していきましょう」と総括を行いました。(株)ハルモニアグラデ 小橋川牧



修了証書の授与



第56回 中小企業問題全国研究会 in 岩手

世界ぜんたいが幸せにならなければ、
個人の幸せはありえない

三月五日から六日にかけて、第五十六回中小企業問題全国研究会が「世界ぜんたいが幸せにならなければ、個人の幸せはありえない」をメインテーマに、岩手県のホテルメトロポリタン盛岡NEW WINGで開催され、全国から千名、沖縄同友会からは十五名が参加しました。

初日は、分科会と懇親会があり、十四の分科会の一つは、沖縄同友会からマエダ電気工事(株)会長・(有)沖島電機社長の眞柴田一郎氏(沖縄同友会相談役)が、「今、あなたが動けなくなったら、会社はどうするの?事業承継とM&Aを同時にした経験から語る」をテーマに経営体験を報告しました。

報告ではマエダ電気工事と沖島電機、二社の経営経験を通じ、事業承継と人材育成の本質を語りました。眞柴田氏は五十五歳での引退を決め実行するため、計画的に事業承継を進めてきました。後継者には弟を選任し、理念の理解と実践こそ成長の鍵とし、経営者の仕事を段階的に任せることで育成してきました。社員の仕事を奪わずに経営者がやらないといけないことだけを育てること、この二つがポイントだ

と話しました。

自身はまた、M&Aにも挑戦し、人とのつながりに支えられながら新たな事業を展開。経営者は自らの言葉と行動に責任を持ち、理念を軸に「心を燃やして」挑み続けることの重要性を強調しました。

翌日は、記念講演で「森林面積九三%山あいに囲まれた中山間地域から起こした奇跡」をテーマに岩泉ホールディングス(株)社長の山下欽也氏が講演。続いて特別企画として、「東日本震災から十五年『一社もつぶさない、つぶさせない』を愚直に掲げ続けて」をテーマにしたパネルディスカッションが行われました。(事務局)



沖縄の参加者 (懇親会)



女性経営者部会「碧の会」バスツアー 絶対に体験できない魅力ある企画

三月十一日、「碧の会」会員交流委員会では昨年続き「バスツアー」を企画しました。今回は、「カイジユウ課長といく！美ら海水族館バックヤードツアー&財団理事長との懇談会」の内容で、ゲスト二名を含む十八名が参加しました。

学びの中心は、美ら島財団の湧川盛順理事長による経営のお話と、海獣課の岡慎一郎課長による現場での説明でした。コロナ禍で水族館が二二五日



集合写真

間、閉館するという未曾有の危機を乗り越えてこられた歩みは、強く心に残りました。「前例にとらわれない」「相手の立場に立つて考える」「必要ならやめる決断も経営」その言葉は、経営者としての在り方を改めて考えさせてくれました。

後半は、通常では立ち入ることのできないバックヤードを含めた特別な研修でした。イルカやウミガメ、マナテューの飼育・保護の現場に触れ、水族館が命を守る拠点でもあることを実感しました。心地よい風と海の香りの中、皆でお弁当を囲み語り合えた時間も、このツアーならではの魅力でした。

その後を観たおきちゃんシヨは、これまでとは違う意味を持ち、より深い感動につながりました。バスの中でも会話が弾み、自然と交流が深まる一日に。碧の会らしい学びと交流が重なったひとときでした。

次回の企画も見逃せません。そう感じさせてくれる、特別な時間でした。

(同) フィット 唐沢祐香



宮古支部 学習会 障がい者雇用に意識を向ける

宮古支部健障者委員会は三月二十一日、J T A ドーム宮古島において八名の参加で学習会を開催しました。当日は、みやこ福祉会の神里裕丈氏を講師に迎え、障がい者雇用に関する法制度や合理的配慮、助成制度などについて具体的な事例を交えながら分かりやすい説明が行われました。

講義では、障がい者雇用は単なる義務ではなく、企業・従業員・社会がともに成長していくための取り組みであることが強調されました。現在、民間企業における法定雇用率は2・5%（二〇二六年七月からは2・7%へ引き上げ予定）とされており、企業として継続的に向き合っていく必要性が示されました。

また、「合理的配慮」については、すべてに対応するのではなく、過度な負担とならない範囲で対話を重ねながら進めていくことが重要であると説明されました。できること・できないことを整理しながら、代替手段を考えていく姿勢が求められます。

実務面では、障がい特性だけでなく、その人の強み（ストロングポイント）に目を向けることの重要性が共有されました。業務を細かく分けて整理し、一人ひとりに合った形で仕事を組

み立てていくことで、無理のない雇用と定着につながるということです。さらに、インターンシップやトライアル雇用制度の活用、福祉事業所との連携など、企業が取り組みやすい具体的な方法も紹介されました。

講義後のグループワークでは、参加者同士で意見交換が行われ、「自社でもできることが見えてきた」「まずは小さな取り組みから始めたい」といった前向きな声が聞かれました。

障がいの有無に関わらず、働くことを通じて「必要とされる」「役に立つ」と感じられることが、人の幸せにつながる。今回の学習会は、「人を生かす経営」を実践していく上で、企業のあり方と地域の未来を考える大切な機会となりました。

(先嶋産業㈱ 友利博明)



集合写真

地域を読み解き、最適解を導く



佐和田 はるか氏

株式会社シグマは、宮古島を拠点に建設コンサルタント業を展開する企業です。道路や農地、宅地開発に関わる調査・測量・設計を担いながら、その根底にあるのは単なるインフラ整備にとどまりません。「まちづくりの会社」として掲げる言葉の背景には、「今ある地域の誇りや人々の誇りを未来へつないでいきたい」という想いがあります。

代表の佐和田はるか氏は、「地方にいと、都会の方が優れていると感じてしまいがちですが、宮古島にはここにしかない価値があります」と話します。ゆったりとした空気感、広がる畑の景色、先人たちが守り続けてきた土地の形。その一つひとつが地域の財産であり、決して劣っているものではありません。だからこそ、効率性や経済性だけを優先して地形を切り崩すのではなく、「あるものを大切にし、ありのままを引き継いでいく」ことを大事にしています。それがシグマのまちづくりの出発点です。

同社の特徴は、水・地形・生態

系、そして文化までを含めた総合的な視点にあります。地下水への配慮や今ある地形を最大限に活用した設計に加え、御嶽や生活動線といった地域に根付いた営みも大切にしています。「真に持続可能なのか？」と問い続け、守るべきものを見極めていく姿勢が他社との大きな違いです。また、ワークショップなどを通じて地域の声を丁寧に拾い上げ、対話を重ねながら計画に反映していく取り組みも特徴の一つです。

近年は冠水対策の分野にも力を入れていきます。気候変動の影響により従来の排水計画では対応しきれないケースが増える中、周辺環境や地形の変化まで見据えた排水提案を行っています。既存施設の浸水被害にも対応し、工事会社と連携した改善提案で信頼を得ています。加えて、ボーリング調査による地盤把握や、不発弾探査など、宮古島特有のリスクにも対応しています。これらを事前に把握することで、施工時のトラブルやコスト増加を防ぎながら、安心・安全な開発と地域の暮らしを守ること



会員ホット情報

今おすすめだよ!

につながると考えています。

さらに、紙情報や電子データを含めた5万件以上の情報を蓄積し、AIを活用したデータ基盤の構築に取り組んでいます。これまで分散していた情報を一元化することで、最新情報の把握や業務の背景理解を容易にするとともに、技術者の経験や判断もデータとして蓄積し、属人化の防止と技術の標準化を進めています。また、行政の人事異動や技術者の高齢化による「情報の断絶」に備え、誰が担当しても最適な判断ができる仕組みづくりを推進しています。

佐和田社長は、「宮古島で事業を行う企業や研究機関と連携しながら、より良いまちづくりを実現していきたい」と今後を見据えています。地域に根差した視点と技術力を融合させたシグマの取り組みは、これからの宮古島の開発のあり方に新たな選択肢を提示してくれます。(先嶋産業(株) 友利博明)

《会社概要》

(株)シグマ

代表取締役社長 佐和田 はるか氏

〈宮古支部〉

所在地／宮古島市平良下里1326-6
TEL／0980-72-8161

事業内容／農業土木設計、調査、測量、各種イベント、ワークショップ等企画運営【建設コンサルティング(計画・調査・設計) 共創コンサルティング(地方創生)】

理念に溢れる「心楽しく」!

わが社の ポリティ

第333回



西原自動車販売(株)は1973年に父親が創業し、54年目を迎えます。地域に感謝し、創立50周年には西原町へ50万円を寄付しました。

社訓は、

- 一、何事も本(もと)を忘れず末を乱さず
- 一、己の分を尽くして用に立つ
- 一、心楽しく日々感謝

特に「心楽しく」は、「共に楽しさと喜びを共有したい」という創業の精神が、会社全体の社風になっています。

父親から兄に事業承継したのが十五年前、同時に理念を掲げました。

一、我社は商品・技術・人を通して、お客様の安心で楽しいカーライフをトータルサポートします。

一、我社は豊かで幸せな楽しい人生を送る為に全スタッフの生活向上を目指します。

一、我社は全スタッフが仕事を通し人間力を磨き、日々自己の成長へ繋げていきます。

理念にも「心楽しく」の精神が流れています。

40名ほど社員がいた当初は、宿泊

研修などに取り組んでいましたが、今は毎週一回の全体ミーティングで理念を深掘しています。

呉屋伸さんは、父から兄への社交代のタイミングで沖縄に戻り、入社しました。当時の会社の雰囲気は悪く、資金繰りが悪化してショートしたことで部門長4人をリストラしたこともありました。そこからトラック10台を所有していた運送業を縮小し、本業の販売・点検にシフトしていきました。今では、客層を絞り込み、生産性の高い、定期点検と車検整備を合わせた「メンテナンスパック(3コース)」が主力となり、お客様とアットホームで末長く付き合う関係が築けています。

コロナ禍のマイナス影響は、さほど受けなかったものの、働き方が改

善するというプラスの効果があったとか。夏には営業日を一日潰して、ビーチクリーンでのBBQを企画しています。家族経営をスリム化したアットホームな雰囲気が店内にありました。

課題はやはり人。車検・整備の予約は三ヶ月先まで埋まっていますが、仕事はあっても整備士が不足、お客様の要望に応えきれません。四月からは、ようやく一人、未経験の方の入社が決まっています。「ハイブリット技術を含め、一生モノの整備スキルを身に付けていただき、早く戦力として活躍してほしい」と呉屋氏は期待します。今後も、西原の地域になくてはならない自動車屋さんとしてあり続けます。

(カラオケ同友会 島尻裕巳)



《会社概要》

西原自動車販売(株)

専務取締役 呉屋 伸氏

(サンライズ支部)

所在地 / 西原町字小那覇269

TEL / 0098-945-4737

事業内容 / 自動車サービス業



「アルジャーノンに花束を」

著者：ダニエル・キース

(同) Green Star OKINAWA

友寄 利津子氏

この本は二十年ほど前に友人から頂いた本です。福祉という業種で仕事をしている関係でも興味深く、頂いてすぐに読み始めました。今回、何を紹介しようかと本棚を探したところ、この本が目にとまりました。

頂いた時は新品だった本が、二十年前ぶりに手に取ると表紙は色褪せ、ペー지를捲ると紙面は薄茶色になり、所々にシミがついています。当時は主人公の心情に入り込んで色々考えた一冊だったと記憶していません。(いろいろ考えたことは忘れましたが・・)

少しネタバラシをしますと、六歳の知能を持った三十二歳のチャーリー・ゴードンが、ある研究に協力し超知能を手に入れてからの愛や喜び、憎しみ孤独を通して人の心の真



小尾美佐 訳：早川書房

改めて読み返すと以前とは違い現実味を帯びて私の心を揺さぶります。二十年前とは明らかに違う感情でした。そして私は、「人は皆ありのままがいい」「愛も、喜び、憎しみ、後悔、悲しみの感情もありのままがいい」と、今の自分自身を受け入れていいという風を感じました。

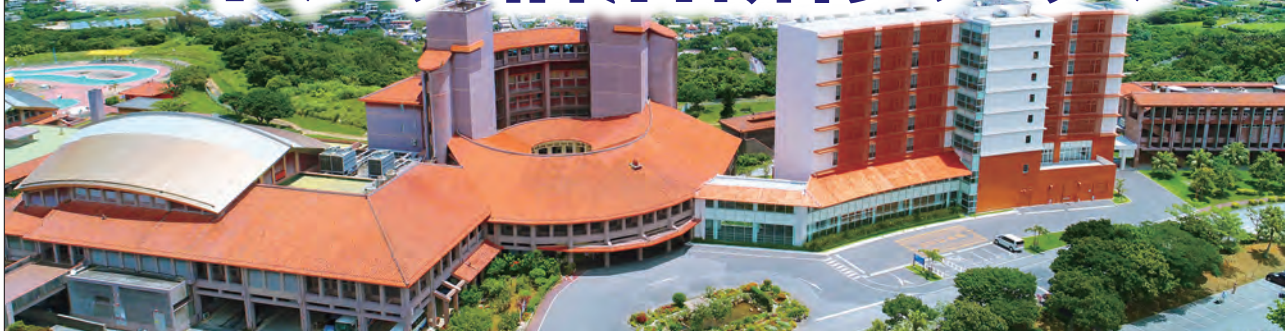
さて、「アルジャーノンに花束を」という題名ですが、アルジャーノンって何!? と思っっていますよね!そこは教えられません。是非この本を手にとってあなた自身で確認してください。

人は皆ありのままがいい

実を描いた作品です。研究に参加する前のテスト段階からチャーリー自身が綴った経過報告です。六歳の知能から超知能になったチャーリーの文章の移り変わりが読者の胸をつかみます。

多数の企業・団体様の利用実績あり! 新入職員・管理職研修におすすめ!

ユインチ宿泊研修プラン



プラン内容

- 研修会場 2 日間※最大 22:00 まで使用可
- ご宿泊 (4~5 名宿泊ベース) ※1~3 名別途料金追加
- 朝食/夕食
- 温泉
- お茶・お冷 (研修会場にてセルフサービス)

お一人様 **18,000円** (税・サ込)

※特別期間除く ※15 名様以上のご利用 ※ラウンジ「感謝」利用は含まれません



Wellness Resort OKINAWA
The Yuinchi Hotel Nanjo

〒901-1412 沖縄県南城市佐敷字新里 1688

<https://www.yuinchi.jp/>

ご予約
お問合せ

098-947-0111

処理期限



お急ぎ
下さい!!

2027年 3月31日まで

作業場や倉庫に眠っているかも

低濃度PCB廃棄物

低濃度PCB廃棄物の例



まずは、現在のお使いの古い電気機器をご確認下さい

今すぐ調査の依頼をしてください!

施設内の古い電気機器に低濃度PCBが潜んでいるかもしれません。
PCB廃棄物は処分期限までに処分が必要です。

2025年4月1日より助成金が出ております



マイキュー

検索

マエダ電気工事株式会社 〒900-0025 沖縄県那覇市豊川1丁目16-11

☎ 098-853-9091 📠 098-853-9093

